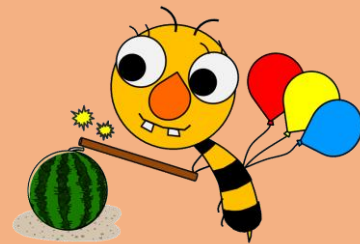


ふくら通信

～2022年夏号～

FUKURA



今年は6月に早くも梅雨明けし、夏が前倒しされたように暑い日が続いておりますね。急に暑くなったので身体がついていくのが大変かと思いますが、水分や感染対策に配慮しつつも屋外ではマスクを外すなどして皆様くれぐれもお気をつけてお過ごしください。

7月に入るとあっという間に夏休みになりますね♪毎年デイでは夏休みの工作をしておりますが、毎年児童指導員が数か月前からみんなで夏休みの製作を何にするか、案を出したり試作をしたりみんなで考えております♪今年の工作も是非お楽しみにしてください!

7月1日にはつくばみらい市に新に「ふくら翼」致しました。早速ご利用者様もいらして、スタッフ一同心を込めて療育をしております。今後ともよろしくお祈りいたします。



代表コラム

「ふくら翼」

7月1日よりつくばみらい市において重症児デイサービスを開所することが出来ました。当市での開設は4年ごしの願いでもありました。上海のロックダウンの影響を受け、建築資材も滞りがちな中、積和建設さんのご尽力によりリフォーム工事もギリギリで完成しました。当日は、さっそく可愛い人工呼吸器を着けたお子さんが2名利用して下さいました!親御さんはふくらがつくばみらい市にも出来たことを「感無量」とおっしゃって涙ぐんでくださり、計り知れないご苦労があったことだろうと、私達も胸がいっぱいになりました。

申請手続きから開所まで、いくつもの壁にぶち当たりましたが、くじけずに立ち上げて良かった!(涙)これから親御さんのお力添えを頂き、一人一人のお子さんのことを教えて頂きながら那珂市、日立市同様、つくばみらいの重症児のためにお役に立っていただけたいと願っております。

「母の帰天」

つくばみらい市のオープンの翌日に、実母が亡くなりました。オープン初日を避けてくれたことが、偶然だとしても母の愛と感じました。3年前に脳内出血で倒れ手術を繰り返すも、ほぼ寝たきりとなり施設でお世話になっておりました。母にとっては辛い3年間だったかも知れませんが、私達家族にとっては病に苦しむ母の姿に胸が痛むも、日頃なかなか言えなかった「大好きだよ」の言葉をたくさん伝えさせてもらったありがたい時間となりました。

ふくらを私が設立した頃、教育者としての母のポリシーを話してくれたことがありました。母が教員になったばかりの頃、昔の事ですから身なりも貧しく、お風呂にも入っていないような生徒もいたそうです。そのような子は、お友達からも嫌がられていじめられるようなこともあったそうです。しかし母は「そんな子こそ心から可愛がった」と話しておりました。家族ではない他人に、心から愛され信頼されたと言う経験が、いつか「生きる力や勇気になる」と言う考えは、母譲りでもあったのかも知れません。

教員を引退した後も、教え子が母を慕って遊びに来てくれた時に「あの時、汚なかった○○ちゃんを可愛がっていた先生だから信頼した」と話してくれた事もありました。

人は生まれて来る時に自分の人生を計画して来ると言われています。私はもしかしたら母と共に教育や福祉を通して子供達の生きる力や喜び、そして勇気を与える使命を果たそうね!と約束して生まれて来たのかもしれないな・・・と母の遺影の前で、涙と共に感じておりました。

「那珂市にて事業所を拡張(向かいの薬局をリノベーション)」

ふくらトータルケア那珂もおかげ様で利用者が増え、大きく作ったつもり建物も長期休みには狭くなってしまい、なんとかせざるを得ない状況になりました。そこで事業所の道路を挟んだ向かい側の薬局跡地をお借りして、広々と療育できるように只今リフォームを進めております。さて、新しい空間で新しい何か取り組みが出来ると良いですね!わくわくしながら考えましょう!子供たちの笑顔がふくらむ場所となりますように。